

	慶弔や写真撮影時に席順に配慮する					家族や来賓を優先にする。				結婚式は何度か出席したが分らなかった。葬儀はつきりした席順があるかどうかは分からないが、社会的地位が上の人間はクーラーのある部屋で、そうでない者はクーラーのない部屋の外の椅子に自発的に座って参列する。			慶弔や写真撮影時には近親者の順や年齢・地位に配慮するが、言語的には定型表現は用いない。		要検討
商業的取引でストラジーが関与	金額、値引きなど交渉する	B1妥当:普通に行う。デパートや量販店など定価販売の店では行わない。	妥当:普通に行う。全レベルで必要。	B1妥当:伝統的市場では普通に行う。徐々にという場面はなくなっている。	妥当:なじみのない店や価格表示がない店などで行う。正当な価格であると思えば行わない。買収保持がないのに、値段だけを見て情報収集してはいけない。一度値段をきいたら交渉しなくては行かない。	B1-B2妥当:個人営業の場合は交渉することが多い。スーパーなど、値札がある場合は行わない。タクシーでは値段交渉する。(電話メータータクシーサービスがあるから今後は値段交渉が要らなくなる可能性がある。)	妥当:市場や一般小売商店では値引き交渉をするが、デパートや高級小売店ではない。買収不動産でも行う。	A1妥当:普通に行う。		A2妥当:「パーザール」などは、値引きの交渉は普通に行うが、以前に比べると少なくなる傾向にある。	妥当ではない:行なわない。そもそも「お金」という概念を持っていない。	B1妥当:フリマ、電気店などでは値切ることが多い。値段交渉が普通の場面(秋葉原など)では妥当。しかしそのような交渉がない場面(日本のデパートなど)では妥当ではない。つまり、場面に応じて使用・不使用を使い分けられることが重要。	妥当:アジアでは一般的。言語ごとに妥当性が異なる	A2, B1	「市場などでものを買うとき値段の交渉ができる」
	商品、代替品や品数を交渉する	B1妥当:普通に行う。	妥当:普通に行う。全レベルで必要。	B1妥当:伝統的市場では普通に行う。徐々にという場面はなくなっている。	妥当:なじみのない店や価格表示がない店などで行う。正当な価格であると思えば行わない。	A1-A2妥当:量産など個人営業の店で行う。精肉や魚屋、八百屋などの閉店間際にも見られる。	妥当。	A1妥当:普通に行う。	B1妥当:普通に行う。	妥当ではない:行なわない。「商取引」という概念がない。	B1妥当:ビジネス日本語ではあり得るが、一般的ではない。	妥当:アジアでは一般的。言語ごとに妥当性が異なる	A2, B1	「売買で値段以外にも数量や品目を交渉できる」	
会話中での好まれる話題やタブーな話題	天気や気候の話題を好む(人間関係の潤滑油的Phaticな要素)	A1妥当:普通に行う。	行わない。	A1妥当。	妥当:天候が変わりやすい場所での会話を行う。	A1-A2妥当:普通悪いこと以外はやわらない。(雨季:サイクロンや洪水など被害が出るような場合であれば話題になる。)	妥当:特に好むわけではない。	A1妥当:好むというほどではないが、多少は行う。	それほど必要でない。話題にはするが、必ずというほどではない。	妥当ではない:行なわない。	A2妥当:普通に行う。好んで使う。	妥当:言語ごとに妥当性が異なる	A1, A2	「雑談的に天候や季節について話題にできる」	
	死んだ人の話題	A2妥当:普通に行う。	避ける、ということではないが、積極的には行わない。		妥当:目下へ、もしは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	A1-A2妥当:普通に行う。	妥当。	A1妥当:普通に行う。	B1-B2まあ妥当:死んだ人に普及する際、名前の前に「神様がお許し下さいますように」等の句を入れるなどの配慮をする。似たような名前が口に出すことははばかれる。親族内に似た名前のものがある場合、3年ほどは改名する。	A1妥当:禁忌である。死んだ人の名前を呼んではいけないし、似たような名前が口に出すことははばかれる。親族内に似た名前のものがある場合、3年ほどは改名する。	妥当:アジアでは一般的。言語ごとに妥当性が異なる	A2, B1	「亡くなった人について敬意など適切な表現を使って話すことができる」		
	相手の趣味や好みを探る	A1妥当:普通に行う。	妥当:普通に行う。		妥当:目下へ、もしは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	A1-A2妥当:自分からは尋ねないのが一般的。	妥当。	A1妥当:普通に行う。	A2-B1妥当:特にタブーにはならない。また、それによって文体差は現れない。	A1妥当:禁忌ではないが、趣味という概念がなしたため、話題に上ることは考えにくい。好みはあり得る。	A1妥当:普通に行う。好んで使う。	妥当:アジアでは一般的。言語ごとに妥当性が異なる	A1, A2, B1	「相手の個人的な趣味や好みを探ることができる」	
	政治的話題(追加項目)		避ける傾向あり。			C1-C2妥当。軍事政権時代は話題にしては行かなかったもので、表では避けるようにしていたが、2012年の民主化以降からは堂々と語るようになった。	相手が自分と同じ政党支持であるのが分かっている場合は行う。				ニュースなどの話題で触れるが本音は言わない。		要検討		
	文体差、レジスタの差が大きいのか?	A2妥当:普通に行う。	妥当:普通に行う。相手と自分の距離を正しく規定する事ができる。	A1妥当:普通に行う。呼びかけに反映される。	妥当:普通に行う。	B1-B2妥当。	妥当。	A1-A2?妥当:普通に行う。	B1以上妥当:年齢差が大きい場合は、敬語表現が変わる。	妥当ではない:差はほとんどない。	B2妥当:待遇表現が必須項目。年齢差よりも、社会的上下関係と親疎関係。両方が文体使用に影響する。	妥当:アジアでは一般的。言語ごとに妥当性が異なる	A2, B1	「相手との年齢差で文体を変えられることができる」	
	出身地・同郷で親疎の差	B2妥当:普通に行う。同郷意識が強いので尋ねることが多い。同郷であれば方言にスウィッチング。	妥当:相手と自分の距離を正しく規定する事ができる。政治的立ち位置にも。	ない。	妥当:個人差がある。	A2-B2妥当。(同郷で親疎の差あり)	妥当:同郷であるのが確認できれば方言使用になる。	A1-A2?妥当:普通に行う。	B1以上まあ妥当:あまり文体差はみられない。	妥当ではない:差はほとんどない。	必要に応じて妥当。必須項目ではない。方言やタモロにスウィッチング。日本人母語話者同士なら方言をどちらでも使うことで共通を得られるが、日本人と外国人の場合はその地域での共通の経験があるかどうかなどが話題となり得る。	妥当:言語ごとに妥当性が異なる	B1, B2	「出身地などを確認して親しみなどを表現することができる」	
	書き言葉と話し言葉との差	B2妥当。	妥当:普通に行う。相手と自分の距離を正しく規定する事ができる。政治的立ち位置にも。	B2妥当:普通に行う。	妥当:普通に行う。	A2-B2妥当。文型や付加語句のスイッチングは難しいが、別のレジスターとして学ぶのは難しい。	妥当。	通常はない。標準語ではないことになっているが、話し言葉は地域差が大きい。	A2妥当:発音、動詞の短縮、語順、語彙等の点で、大きく異なる。	妥当ではない:差はほとんどない。	B2?妥当:非常に大きい。	妥当:言語ごとに妥当性が異なる	B2	「話し言葉と書き言葉が異なる場合、その文体差を表現できる」	
	男女差と文体・語彙の差	使わない。親しい若者同士では使わない。もし入るならばB1。	妥当:難易度高し。相手と自分の距離を正しく規定する事ができる。政治的立ち位置にも。	使わない。	妥当:一部の語彙のみに限定。	A2-B2妥当。必ず学ぶ必要がある。文未表現または呼称に使われる。	通常はない。	それほど必要でない。それほど大きな違いはない。形態上の差異はないが、女性は謙譲表現よりも尊敬表現を使うことが多い印象。		妥当ではない:男女の文体差はない。	B1妥当:差が大きいので必須項目。	妥当:言語ごとに妥当性が異なる	A2, B1	「親しさの度合いにより、男女の文体差を区別できる」	
	文章体で時候の挨拶文など特殊表現	B2妥当:普通に行う。	?	C2妥当:手紙文。		C2妥当。特に小説の出だしや手紙文などに見られる。難易度高いが、必須。	通常はない。	A1-A2妥当:手紙文の書き方などで、若干はある。	B1-B2妥当:手紙等で行う。	妥当ではない:差はほとんどない。	B2妥当:定型表現を使えば良いが、...	妥当:アジアでは一般的。言語ごとに妥当性が異なる	B1-C2	「定型な挨拶文や依頼文などを適切に書くことができる」	